

令和2年度 東地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	令和2年12月7日
行政評価実施日	令和3年1月12日
運営協議会開催日	令和3年3月23日

包括情報	
法人名	社会福祉法人緑星の里
責任者	米田 清美
所在地	苫小牧市沼ノ端中央4丁目14-24
連絡先	0144-52-1155

地域情報	
担当地区	明野元町、あけぼの町、字植苗、字柏原、ウトナイ北、ウトナイ南、新開町、拓勇西町、拓勇東町、東開町、字沼ノ端、北栄町、字美沢、字勇払
高齢者人口	5,554 人(R2.10.1現在)
高齢化率	14.9 %(R2.10.1現在)
地域特性	苫小牧市の東側に位置しており、鉄道を挟んで、新興住宅が広がる北側の地域と、高齢化率がかかなり高くなっている南側の地域に大きく分けられている。勇払地区は、企業の撤退により、人口の減少、診療所を始めとする社会資源が圧倒的に少ないことが大きな課題である。中心部から離れている事で、通院を始めとする移動手段の確保が高齢者にとっては困難な状況がある。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 5 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 人
社会福祉士 1.5 人	
その他 1.5 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 6.5年

総合評価	
自己評価	行政評価
昨年指摘のあった項目については、改善できるよう努力してきた。大勢で集まる事ができなかったため、地域活動に大いに支障があった。その中でも、対策を行い、必要な会議やカンファレンスは開催できるよう努力してきた。看護職の退職があり、2か月余りの空白が生じた。包括での医療職配置の重要性を再認識させられた。	今年度活動規模は縮小したが、少人数で行える活動等、できる範囲で実施してきた努力を評価する。また、困難ケース支援等を通し、地域包括支援センターとしてチームで動くことを意識している。活動の縮小が職員のモチベーション低下につながらないよう、コロナ禍に対応した活動の計画性をもって対応することを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
	自己評価	行政評価
特記事項	書類の提出や記録の入力について、前年度の指摘事項だったため、留意しながら業務を行った。会議やミーティングを有効に活用し、職員間で統一した考えのもと、適切に対応するよう努力した。研修へも積極的に参加し、伝達研修も行っている。	昨年度の課題を意識し取り組んだことを評価する。職員間で情報を共有し、誰に連絡しても対応できるよう意思統一を図りながら業務遂行することを継続できている。
2 共通的支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	チラシの作成や配布、Facebookを活用して広報活動を行った。地域ケア会議やケアマネジャー・民生委員との定期の懇談会を活用し、課題の把握に努めた。	法人として実施した記念誌の発行や、チラシ・Facebook等を活用した幅広い広報がされた。今年度は活動範囲が狭まるなか、できる限り情報収集に努め、資源開発に向けた関係機関との検討を行ったことを評価する。

評価項目

3 総合相談支援・権利擁護

- (1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。
- (2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている
- (3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている
- (4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している
- (5)主担当以外においてもケースの概要を把握している
- (6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している
- (7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている
- (8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている
- (9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている
- (10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している

	自己評価	行政評価
特記事項	相談件数が多くなる中、どのような相談にも対応するよう努めてきた。包括内で、情報共有・連携しての対応を行った。介護予防教室で、消費被害についての勉強会も開催した。	断らない支援を心掛け、関係機関と3職種が情報共有を図り、チームとして速やかに連携し対応していることを評価する。消費者被害について、研修企画し周知活動を行っており、今後も動向を把握しながらの活動を期待する。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- (1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている
- (2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている
- (3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている
- (4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている
- (5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している

	自己評価	行政評価
特記事項	ケアマネジャーに対してのサポート体制がある。地域ケア会議は、必要時適切に開催している。地域の資源マップを作成している。	コロナ禍により、東三中や手つなぎネット等の勉強会はほぼ実施できなかった。同行訪問の回数も減り、思うような支援はできなかったが、地域ケア会議の開催によるネットワーク構築や地域資源マップの作成等工夫し行っている点を評価する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>予防教室中断者や、支援を中断した人に対しての関わりが途切れがちだったことが反省として挙げられる。拒否している方については、情報が得られるような工夫をしている。</p>	<p>訪問が減少し、電話での状況把握を行う等、最小限の関りになることが多かったが、支援中断者や、情報が入りづらい夫婦世帯等への支援の在り方を再検討したり、家での運動の取組等現在の状況を踏まえた予防支援の充実を期待する。</p>
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	<p>仕組みづくりや、地域づくりについては、今年度の社会情勢では困難だったが、出来る範囲で、工夫しながら活動を継続してきた。</p>	<p>サポーター養成や搜索模擬訓練については、限られた状況の中で工夫し取り組んだことを評価する。チーム員では困難ケースが増え、支援を進めにくい状況はあるが、引き続きチームとしての長所を生かした支援を期待する。</p>
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	<p>オンライン診療に繋がったケースや、とまこまい医療介護連携センターの紹介で、在宅診療に結びついたケースがあったことが成果である。地域の病院から、地域包括支援センターを紹介してもらった事が複数回あった。</p>	<p>とまこまい医療介護連携センター等との連携を深め、在宅診療やオンライン診療につながったことを評価する。今後も円滑な医療介護連携に努めることを期待する。</p>

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか		
特記事項	自己評価	行政評価
	地域課題や資源把握については常に考えている。生活支援コーディネーターと個別に連携する事は増えてきているが、今後は把握の先を見据え、地域の資源開発を共に行っていきたいと考えている。	生活支援コーディネーターと犬猫預かり事業や病院への送迎支援等、地域課題を資源開発につなげられるよう、情報連携しながら進めている点を評価する。今後も把握した情報や課題を共有し、協働しながら資源開発を進めていくことを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	介護予防教室には、包括の看護師を中心に、職員が必ず参加し、体調や参加状況など打ち合わせを行っている。中断中は、文書での情報提供、電話での体調確認等を行ったほか、周知活動として、病院・薬局等にチラシを掲示している。出前講座の依頼は積極的に受けている。	教室の一時中止等あり、定期的ではなかったが必要な体調確認等実施した。コロナ禍においてもできる活動として、積極的なチラシ配布や出前講座の実施については、今後も継続いただきたい。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
<p>個別の地域ケア会議は、積極的に開催し、課題の解決に結び付けられるようにした。東地域包括支援センターの目標としている断らない支援を実践し、高齢者に限らず、どのような相談でも受けてきた。ワンストップのサービスを実践するように努力した一年だった。障害や世帯に課題のある場合、関係機関との連携は必須であり、地域ケア会議以外でもカンファレンスを行い、地域の問題としてとらえるようにしている。</p>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<p>地域活動については、大勢で集まる事が自粛となり十分に出来なかったが、対策を工夫し、出来る範囲でやろうとする努力は継続して行ってきた。今まで作ってきたネットワークを活用し、やれることはやってきている。</p>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<p>地域活動については、大勢で集まる事が自粛となり十分に出来なかったが、対策を工夫し、出来る範囲でやろうとする努力は継続して行ってきた。社会情勢によりやむを得ない状況にあったが、工夫や努力で乗り切ろうとしてきた。</p>
4 課題及び今後の取組
<p>感染症対策を行いながら、少人数でも活動できるような工夫が必要。コロナウイルス対策が適切に講じられれば今までの活動も再開していきたい。前年度と同様に町内会との繋がりが薄い事が課題。特に若い方の多い地域への働きかけは、町内会との連携が大切である。8050問題に代表されるよう、世帯の問題として解決できる力量も求められている。児童や学童のいる世帯の問題もあり、今後は教育機関等との連携も大きな課題となってくることが予測できる。福祉だけではなく他分野との連携が更に求められている。そのスキルを持つ事が重要と考えている。</p>